

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 4 月 7 日 (2005.4.7)

【公開番号】特開 2001-259201 (P2001-259201A)
 【公開日】平成 13 年 9 月 25 日 (2001.9.25)
 【出願番号】特願 2000-81294 (P2000-81294)
 【国際特許分類第 7 版】
 A 6 3 F 7/02
 【F I】
 A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 5 月 11 日 (2004.5.11)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【書類名】明細書
 【発明の名称】遊技機用基板ボックス
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 遊技機の制御部品を搭載した回路基板を収容するために 1 面が開放されたボックススペースと、そのボックススペースの開放部分に覆設され、そのボックススペースとともに前記回路基板を被包するボックスカバーとを備えた遊技機用基板ボックスにおいて、

前記ボックススペース又はボックスカバーの一方から他方へ向けて立設され、そのボックスカバーと前記ボックススペースとの対向面間を塞ぐ側壁部材と、

その側壁部材と前記ボックススペース又はボックスカバーの他方との対向面間を遮蔽する遮蔽部材とを備えていることを特徴とする遊技機用基板ボックス。

【請求項 2】 前記側壁部材を、その側壁部材に対向する前記ボックススペース又はボックスカバーの他方における縁部に連結し、そのボックスカバーを前記ボックススペースに対して開閉可能に結合する開閉部材を備え、前記遮蔽部材は、その開閉部材により結合される前記側壁部材と前記ボックススペース又はボックスカバーの他方における縁部との対向面間を遮蔽するものであることを特徴とする請求項 1 記載の遊技機用基板ボックス。

【請求項 3】 前記ボックススペース又はボックスカバーの他方は、前記側壁部材と対向する位置からその側壁部材へ向けて立設される第 2 側壁部材を備え、前記遮蔽部材は、前記側壁部材から前記ボックススペース又はボックスカバーの他方側へ向けて立設されるとともに、前記第 2 側壁部材における前記側壁部材との対向面より更に前記ボックススペース又はボックスカバーの他方側へ延出されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に遊技機用基板ボックス。

【請求項 4】 前記第 2 側壁部材における前記側壁部材との対向面は、その側壁部材における前記第 2 側壁部材との対向面と当接されており、前記遮蔽部材は、前記第 2 側壁部材の立設位置より内側位置へ向けて立設され、その遮蔽部材の外側面は前記第 2 側壁部材の内側面と当接されていることを特徴とする請求項 3 記載の遊技機用基板ボックス。

【請求項 5】 前記遮蔽部材は、略板状に形成されると共に、前記ボックススペース又はボックスカバーの縁部に沿って所定長さ連続して設けられていることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれかに記載の遊技機用基板ボックス。

【請求項 6】 前記遮蔽部材は前記ボックススペース又はボックスカバーのいずれか一方に一体的に形成されていることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれかに記載の遊技機

用基板ボックス。

【請求項 7】 前記遮蔽部材は前記ボックススペースおよびボックスカバーと別体に形成されていることを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれかに記載の遊技機用基板ボックス。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は遊技機の制御部品を搭載した回路基板を被包する遊技機用基板ボックスに関し、特に、ボックススペース及びボックスカバーのこじ開けを防止して、回路基板への不正行為を防ぐことができる遊技機用基板ボックスに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 近年、パチンコ機などの遊技機は、その遊技盤に設けられる入賞装置および表示装置等を制御して、遊技の興趣を盛り上げるものが主流となっている。この入賞装置および表示装置の制御は、IC、LSI等の多数の電子部品を搭載したロジック回路基板、又は、マイクロコンピュータを有する回路基板により行われる。これらの回路基板はボックススペースおよびボックスカバーを備えた基板ボックスに被包されており、この基板ボックスのボックススペース及びボックスカバーの一部分は、特殊な封印ねじにより接合され封印されている。

【0003】

この封印に用いられる封印ねじは、その頭部にねじ回し工具の先端がねじ込み方向にのみ係合される十字溝が形成されている。よって、この十字溝にねじ回し工具が係合され反ねじ込み方向へ回転されると、ねじ回し工具が空回りされて封印ねじの抜き取りが防止されるのである。従って、かかる封印ねじで基板ボックスを封印することによって、基板ボックスの開封が防止されるので、基板ボックスに被包された回路基板への接触行為や、その回路基板からROMを取り外して交換し遊技内容を変更する不正行為が防止される。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記の基板ボックスでは、封印ねじによってボックススペース及びボックスカバーの一部分のみが接合されるとともに、ボックススペース及びボックスカバーの合わせ目（当接面）が略平面状にそれぞれ形成されている。このため、ボックススペース及びボックスカバーの合わせ目に薄板状の工具等を差し込むことにより、ボックススペース及びボックスカバーの合わせ目に隙間が開けられ、基板ボックスがこじ開けられてしまうという問題点があった。

【0005】

このように基板ボックスがこじ開けられると、ボックススペース及びボックスカバーの合わせ目に生じる隙間から薄板状の工具等を差し込むことができるので、その薄板状の工具や針金等の先端部分で回路基板の回路パターンなどの信号線が削られ切断されて、遊技内容が不正に変更されてしまうという問題点があった。

【0006】

本発明は上述した問題点を解決するためになされたものであり、ボックススペース及びボックスカバーのこじ開けを防止して、回路基板への不正行為を防ぐことができる遊技機用基板ボックスを提供することを目的としている。

【0007】

【課題を解決するための手段】 この目的を達成するため、請求項 1 記載の遊技機用基板ボックスは、遊技機の制御部品を搭載した回路基板を收容するために 1 面が開放されたボックススペースと、そのボックススペースの開放部分に覆設され、そのボックススペースとともに前記回路基板を被包するボックスカバーとを備え、前記ボックススペース又はボックスカバーの一方から他方へ向けて立設され、そのボックスカバーと前記ボックススペースとの対向面間を塞ぐ側壁部材と、その側壁部材と前記ボックススペース又はボックスカバーの他方との対向面間を遮蔽する遮蔽部材とを備えている。

【0008】

この請求項 1 記載の遊技機用基板ボックスによれば、まず、回路基板がボックススペースの開放部分からボックススペース内に収容される。この収容後、ボックススペースの開放部分にボックスカバーが覆設されると、ボックススペース及びボックスカバーにより回路基板が被包される。この回路基板が被包された状態では、ボックスカバーとボックススペースとの対向面間が側壁部材により塞がれるとともに、この側壁部材とボックススペース又はボックスカバーの他方との対向面間が遮蔽部材により遮蔽される。よって、ボックススペース及びボックスカバーをこじ開けるため、側壁部材とボックススペース又はボックスカバーの他方との対向面間へ、薄板状の工具等が差し込まれたとしても、その工具等の先端は遮蔽部材に突き当たり、かかる差し込みが防止される。

請求項 2 記載の遊技機用基板ボックスは、請求項 1 記載の遊技機用基板ボックスにおいて、前記側壁部材を、その側壁部材に対向する前記ボックススペース又はボックスカバーの他方における縁部に連結し、そのボックスカバーを前記ボックススペースに対して開閉可能に結合する開閉部材を備え、前記遮蔽部材は、その開閉部材により結合される前記側壁部材と前記ボックススペース又はボックスカバーの他方における縁部との対向面間を遮蔽するものである。

請求項 3 記載の遊技機用基板ボックスは、請求項 1 又は 2 に記載の遊技機用基板ボックスにおいて、前記ボックススペース又はボックスカバーの他方は、前記側壁部材に対向する位置からその側壁部材へ向けて立設される第 2 側壁部材を備え、前記遮蔽部材は、前記側壁部材から前記ボックススペース又はボックスカバーの他方側へ向けて立設されるとともに、前記第 2 側壁部材における前記側壁部材との対向面より更に前記ボックススペース又はボックスカバーの他方側へ延出されている。

請求項 4 記載の遊技機用基板ボックスは、請求項 3 記載の遊技機用基板ボックスにおいて、前記第 2 側壁部材における前記側壁部材との対向面は、その側壁部材における前記第 2 側壁部材との対向面と当接されており、前記遮蔽部材は、前記第 2 側壁部材の立設位置より内側位置へ向けて立設され、その遮蔽部材の外側面は前記第 2 側壁部材の内側面と当接されている。

請求項 5 記載の遊技機用基板ボックスは、請求項 1 から 4 のいずれかに記載の遊技機用基板ボックスにおいて、前記遮蔽部材は、略板状に形成されると共に、前記ボックススペース又はボックスカバーの縁部に沿って所定長さ連続して設けられている。

請求項 6 記載の遊技機用基板ボックスは、請求項 1 から 5 のいずれかに記載の遊技機用基板ボックスにおいて、前記遮蔽部材は前記ボックススペース又はボックスカバーのいずれか一方に一体的に形成されている。

請求項 7 記載の遊技機用基板ボックスは、請求項 1 から 5 のいずれかに記載の遊技機用基板ボックスにおいて、前記遮蔽部材は前記ボックススペースおよびボックスカバーと別体に形成されている。

【 0 0 0 9 】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の好ましい実施例について、添付図面を参照して説明する。図 1 は、本発明の遊技機用基板ボックスの一実施例である主制御基板ボックス（以下、単に、基板ボックスと称す。）1 が配設されたパチンコ機 P の裏面図である。図 1 に示すように、基板ボックス 1 は、薄板鋼材等で構成された薄皿状の取付部材 P 1 により、遊技機の一つであるパチンコ機 P の遊技盤 P 2 の裏面に設けられた入賞球集合カバー P 3 に取り付けられている。

【 0 0 1 0 】

基板ボックス 1 は、パチンコ機 P の遊技内容に関する制御プログラムやデータを記憶した ROM 等の電子部品（制御部品）が搭載された主制御基板 7（図 2 参照）を被包するためのものであり、主に、ボックススペース 2 と、そのボックススペース 2 に覆設されるボックスカバー 3 とを備えている。

【 0 0 1 1 】

図 2 は、基板ボックス 1 の分解斜視図であり、図 2 中の矢印 A は、ボックスカバー 3 をボックススペース 2 に結合するために、ボックスカバー 3 をボックススペース 2 に対して相対

的にスライドさせる方向を示している。尚、図 2 では、スペーサ 2 a 4 及びスペーサ 2 a 5 の図示を省略している。

【 0 0 1 2 】

図 2 に示すように、基板ボックス 1 のボックスベース 2 及びボックスカバー 3 はいずれも略矩形椀状体に形成されており、ボックスベース 2 は後述する主制御基板 7 を収容（設置）可能に形成されている。この基板ボックス 1 によれば、ボックスベース 2 内に後述する主制御基板 7 を収容（設置）した状態で、ボックスベース 2 及びボックスカバー 3 における互いの開口面（開放部分）を対向させ合致（合体）させることにより、ボックスカバー 3 がボックスベース 2 に覆設され、主制御基板 7 を被包することができる。尚、図 2 では、ボックスカバー 3 を裏面（後面）側から斜視しており、主制御基板 7 の部品面 7 1（図 2 の裏側面）に搭載される電子部品を省略して図示している。

【 0 0 1 3 】

ボックスベース 2 は、後述する主制御基板 7 が設置される略矩形平板状の底板 2 a と、その底板 2 a の 4 つの端辺にそれぞれ（図 2 の紙面に対する手前側へ）立設される略平板状の側壁板 2 b, 2 c, 2 e, 2 f とを備えている。これらの側壁板 2 b, 2 c, 2 e, 2 f の各端部は平面視口字状となるように連設されており、ボックスベース 2 は、これら 5 枚の底板 2 a、側壁板 2 b, 2 c, 2 e, 2 f により 1 面に開放部分が設けられた略矩形椀状体に形成されている。また、側壁板 2 b, 2 c の外面には、基板ボックス 1 を封印するボックス封印具 1 0 の封印ユニット 2 0 がそれぞれ配設されている。尚、ボックス封印具 1 0 の封印ユニット 2 0 についての説明は後述する。

【 0 0 1 4 】

ボックスベース 2 の内部には、主制御基板 7 を収容するための略凹状の空間である収容空間 2 d が設けられている。この収容空間 2 d は、その長手方向（図 2 の上下方向）幅、即ち、側壁板 2 b, 2 c の対向面間幅が幅長 L 1 に形成されており、主制御基板 7 の長手方向（図 2 の上下方向）における幅長 L 2 より大きく形成されている（ $L 1 > L 2$ ）。しかも、収容空間 2 d における幅長 L 1 の方向、及び、主制御基板 7 における幅長 L 2 の方向は、ボックスカバー 3 のスライド方向（図 2 の矢印 A 方向）と一致している。

【 0 0 1 5 】

側壁板 2 e は、ボックスカバー 3 の側壁板 3 d に対応して立設されており、ボックスカバー 3 がボックスベース 2 に覆設された場合に、側壁板 3 d とともに基板ボックス 1 の左側面（図 2 及び図 4 の左側）を塞ぐものである。この側壁板 2 e には、略同一形状の矩形棒状体に形成された 4 つの係止棒 2 e 1 が設けられている。各係止棒 2 e 1 は、後述するボックスカバー 3 の 4 つの係止爪 3 d 1 を回動可能かつ摺動可能に係止するものであり、この係止によってボックスベース 2 の側壁板 2 e とボックスカバー 3 の側壁板 3 d とを連結し、ボックスカバー 3 をボックスベース 2 に対して開閉可能に結合することができる。

【 0 0 1 6 】

各係止棒 2 e 1 は、側壁板 2 e における底板 2 a の長手方向（図 2 の上下方向）に略等間隔で設けられており、この各係止棒 2 e 1 の間隔は間隔幅 t 1 とされている。また、各係止棒 2 e 1 には、各係止爪 3 d 1 が挿入可能な係止溝 2 e 2 がそれぞれ穿設されている。これらの各係止溝 2 e 2 は、後述するボックスカバー 3 の 4 つの係止爪 3 d 1 をボックスベース 2 の長手方向へ向けて摺動可能に係止するために、ボックスベース 2 の長手方向、即ち、底板 2 a の長手方向幅が幅長 w 1 の長溝状にそれぞれ形成されている。

【 0 0 1 7 】

しかも、これらの各係止溝 2 e 2 の長手方向（図 2 の上下方向）両端側には、ボックスカバー 3 の各係止爪 3 d 1 の摺動位置を制限する制限壁 2 e 3 がそれぞれ設けられている。よって、これらの各制限壁 2 e 3 により、ボックスカバー 3 がボックスベース 2 に対して相対的にスライドする際に、ボックスカバー 3 の各係止爪 3 d 1 の摺動量が制限され、ボックスカバー 3 の相対的なスライドが規制されるのである。

【 0 0 1 8 】

側壁板 2 f は、ボックスカバー 3 の仕切部材 5 に対応して立設されており、ボックスカ

バー 3 がボックススペース 2 に覆設された場合に、仕切部材 5 とともに基板ボックス 1 の右側面（図 2 及び図 4 の右側）を塞ぐものである。また、側壁板 2 f は、基板ボックス 1 に収納された主制御基板 7 に接続されるケーブル（配線部材）を導出するための導出口 2 f 1 を備えている。

【0019】

また、底板 2 a の前面における側壁板 2 c , 2 e の連設部分の隅（図 2 の左下側）には略円柱状のスペーサ 2 a 1 が突設され、底板 2 a の前面における側壁板 2 c 側（図 2 の下側）の縁部略中央には略板状のスペーサ 2 a 2 が底板 2 a 及び側壁板 2 c に跨って突設されている。更に、底板 2 a 前面には、側壁板 2 f 側の縁部（図 2 の右側）に底板 2 a の長手方向（図 2 の上下方向）へ向けて連続した略板状のスペーサ 2 a 3 が立設されている。

【0020】

ボックススペース 2 の側壁板 2 b には矩形板状のロック板 2 g が外方（図 2 の上方）へ向けて突設される一方、ボックススペース 2 の側壁板 2 c には後述するボックスカバー 3 のロック板 3 e が係止される矩形平板状の結合板 2 h が配設されている。この結合板 2 h には後述するロック板 3 e が挿入可能な結合口 2 i が穿設されており、ボックススペース 2 に合致されたボックスカバー 3 を矢印 A 方向へスライドさせると、かかる結合口 2 i へロック板 3 e を挿入することができる。

【0021】

その結果、ボックスカバー 3 のロック板 3 e はボックススペース 2 の結合板 2 h に係止され、ボックススペース 2 およびボックスカバー 3 が結合されるので、かかる結合状態で、ボックスカバー 3 が各係止枠 2 e 1 及び後述する各係止爪 3 d 1 を介して回動され開放されることを防止することができるのである。

【0022】

ボックスカバー 3 は、ボックススペース 2 の底板 2 a に対向してボックススペース 2 の開口面（図 2 の手前側）を覆う略平板状の天板 3 a と、その天板 3 a の長手方向（図 2 の上下方向）における両端に立設された側壁板 3 b , 3 c と、天板 3 a の一側縁部（図 2 右側）から外方へ傾斜した側壁板 3 d とを備えている。このボックスカバー 3 の側壁板 3 b , 3 c には、基板ボックス 1 を封印するため、上記した封印ユニット 2 0 に対向して封印ユニット 3 0 がそれぞれ配設されている。なお、ボックス封印具 1 0 の封印ユニット 3 0 についての説明は後述する。

【0023】

ボックスカバー 3 の側壁板 3 d は、天板 3 a の一側縁部（図 2 の右側）から傾斜しつつ延出されており、この側壁板 3 d における延出部分の端面（図 2 の手前側面）には上述した各係止枠 2 e 1 に対応して 4 つの係止爪 3 d 1 が略等間隔でそれぞれ設けられている。これらの各係止爪 3 d 1 の先端部分は略 J 字状にそれぞれ屈曲形成されており、かかる係止爪 3 d 1 の先端部分は係止枠 2 e 1 の係止溝 2 e 2 に挿入可能に形成されている。この係止爪 3 d 1 を係止溝 2 e 2 へ挿入することにより、各係止爪 3 d 1 が各係止枠 2 e 1 に係止されるのである。また、各係止爪 3 d 1 の長手方向幅は幅長 w_2 に形成され、各係止溝 2 e 2 の幅長 w_1 より幅狭に形成されている（ $w_1 > w_2$ ）。

【0024】

側壁板 3 d における延出部分の端面（図 2 の手前側面）であって、上述した各係止爪 3 d 1 の間部分には、複数枚（例えば、3 枚）の略平板状の遮蔽板 3 d 2 が一体的に立設されている。この複数の遮蔽板 3 d 2 は、ボックスカバー 3 がボックススペース 2 に覆設された場合に、側壁板 3 d と側壁板 2 e との対向面間（合わせ目）を遮蔽して塞ぐものである（図 5（b）参照）。また、各遮蔽板 3 d 2 の長手方向（図 2 の上下方向）幅は幅長 w_3 に形成され、この各遮蔽板 3 d 2 の幅長 w_3 は各係止枠 2 e の間隔幅 t_1 より幅狭に形成されている（ $w_3 < t_1$ ）。

【0025】

また、ボックスカバー 3 の側壁板 3 c には矩形板状のロック板 3 e が外方（図 2 の下方）へ向けて突設される一方、ボックスカバー 3 の側壁板 3 b には上述したボックススペース

2 のロック板 2 g が係止される矩形平板状の結合板 3 f が配設されている。この結合板 3 f には上述したロック板 2 g が挿入可能な結合口 3 g が穿設されており、ボックススペース 2 に合致されたボックスカバー 3 を矢印 A 方向へスライドさせると、かかる結合口 3 g へロック板 2 g を挿入することができる。その結果、ボックススペース 2 のロック板 2 g はボックスカバー 3 の結合板 3 f に係止され、ボックススペース 2 およびボックスカバー 3 が結合されるので、かかる結合状態で、ボックスカバー 3 が各係止枠 2 e 1 及び後述する各係止爪 3 d 1 を介して回動され開放されることを防止することができるのである。

【 0 0 2 6 】

ボックスカバー 3 の側壁板 3 c の内側面には略 L 字板状の内壁板 3 h が隣接して形成されている。この内壁板 3 h は、天板 3 a から主制御基板 7 側（図 2 の手前側）へ向けて立設されており、その端部が側壁板 3 c の端部より突出して形成されている。このため、ボックスカバー 3 がボックススペース 2 に覆設された場合に、内壁板 3 h の端部はボックススペース 2 の側壁板 2 c 前端より底板 2 a 側へ突出するのである。

【 0 0 2 7 】

よって、ボックススペース 2 に覆設されたボックスカバー 3 を矢印 A 方向へスライドした場合に、内壁板 3 h 端部をボックススペース 2 の側壁板 2 c 前端に引っ掛けることができる。このように、内壁板 3 h が側壁板 2 c に引っ掛かることにより、ボックスカバー 3 の矢印 A 方向へのスライドを停止させることができ、ボックスカバー 3 をボックススペース 2 に確実に合致させることができる。

【 0 0 2 8 】

図 3 は、ボックススペース 2 に合致されたボックスカバー 3 がスライドされて結合される以前の状態における基板ボックス 1 の側断面図であり、図 3 中の矢印 A は、ボックスカバー 3 をボックススペース 2 に結合するために、ボックスカバー 3 をボックススペース 2 に対して相対的にスライドさせる方向を示している。尚、図 3 では、スペーサ 2 a 3 を省略して図示している。

【 0 0 2 9 】

図 3 に示すように、底板 2 a の前面における側壁板 2 b , 2 e の連設部分の隅（図 3 の上側）には円柱状のスペーサ 2 a 4 が突設され、底板 2 a の前面における側壁板 2 b 側縁部には略板状のスペーサ 2 a 5 が底板 2 a 及び側壁板 2 b に跨って突設されている。尚、スペーサ 2 a 4 は、スペーサ 2 a 1 と上下対称に突設され、スペーサ 2 a 5 はスペーサ 2 a 2 と上下対称に突設されている。

【 0 0 3 0 】

スペーサ 2 a 1 ~ 2 a 5 は、ボックススペース 2 内に主制御基板 7 が収容される場合に、主制御基板 7 の半田面 7 2 側縁部（図 2 の手前側面）に当接して主制御基板 7 を支持するものであり、主制御基板 7 と底板 2 a との間に隙間を設けて、その半田面 7 2 と底板 2 a との接触を防止することができる。

【 0 0 3 1 】

よって、収容空間 2 d 内で主制御基板 7 をボックスカバー 3 と共にスライドさせる場合には、主制御基板 7 と底板 2 a との間に隙間により、主制御基板 7 の半田面 7 2 から底板 2 a へ向けて突出する電子部品等の接続用ピン（図示せず）などが底板 2 a に引っ掛かることが防止されるので、主制御基板 7 を収容空間 2 d 内で円滑にスライドさせることができる。しかも、これらのスペーサ 2 a 1 ~ 2 a 5 は、底板 2 a からの突出高さが略等しくされており、主制御基板 7 を収容空間 2 d 内にガタつかせずに収容することができる。

【 0 0 3 2 】

ボックスカバー 3 とボックススペース 2 とが合致され、かつ、ボックスカバー 3 が矢印 A 方向へスライドされる以前の状態では、収容空間 2 d の側壁板 2 c とその側壁板 2 c と対向する主制御基板 7 端部（図 2 及び図 3 の下側端）との間に幅長 L 1 と幅長 L 2 の差分長さの空隙 L 3（= L 1 - L 2）を設けることができる。よって、かかる空隙 L 3 が設けられることにより、主制御基板 7 は、後述するように、ボックスカバー 3 の矢印 A 方向へ向けたスライドに伴って、収容空間 2 d 内で矢印 A 方向へスライドされるのである。

【 0 0 3 3 】

また、各係止爪 3 d 1 が係止された各係止溝 2 e 2 内には、係止爪 3 d 1 と係止溝 2 e 2 の長手方向における差分長さ分の空隙 $w 4 (= w 1 - w 2)$ が設けられている。よって、各係止爪 3 d 1 が係止溝 2 e 2 に挿入された場合には、ボックスカバー 3 を、係止溝 2 e 2 および係止爪 3 d 1 の空隙 $w 4$ 分だけ矢印 A 方向へスライドさせることができるのである。即ち、空隙 $w 4$ は、ボックスカバー 3 のボックススペース 2 に対する相対的なスライド量と一致するのである。

【 0 0 3 4 】

しかも、ボックスカバー 3 のボックススペース 2 に対するスライド量と一致する係止溝 2 e 2 および係止爪 3 d 1 の空隙 $w 4$ は、上述したボックススペース 2 の収容空間 2 d と主制御基板 7 との空隙 $L 3$ より小さくされている ($L 3 > w 4$)。よって、図 3 に示す状態からボックスカバー 3 と共に主制御基板 7 を矢印 A 方向への空隙 $w 4$ の長さ分スライドさせる場合に、主制御基板 7 における側壁板 2 c との対向端 (図 3 の下側) がボックススペース 2 の側壁板 2 b と衝突して破損することを防止できる。

【 0 0 3 5 】

また、各係止枠 2 e 1 の間部分には遮蔽板 3 d 2 がそれぞれ入り込んでおり、かかる状態で、各遮蔽板 3 d 2 の下端面 (図 3 下側) とそれに対向する各係止枠 2 e 1 の上端面との間には空隙 $w 5 (= t 1 - w 3)$ が設けられている。しかも、この空隙 $w 5$ は、空隙 $w 4$ より若干小さくされている ($w 5 < w 4$)。よって、図 3 に示す状態からボックスカバー 3 と共に主制御基板 7 を矢印 A 方向への空隙 $w 4$ の長さ分スライドさせる場合に、各遮蔽板 3 d 2 が各係止枠 2 e 1 と衝突して破損することを防止することができる。

【 0 0 3 6 】

また、上述した側壁板 3 d におけるボックスカバー 3 の長手方向両側近傍には、天板 3 a 側端 (図 2 左側) から係止爪 3 d 1 側端 (図 2 右側) へ向けて略円柱状の位置決め部材 4 , 4 がそれぞれ立設されている。この一对の位置決め部材 4 , 4 は、後述する主制御基板 7 をボックスカバー 3 の所定位置に位置決めするためのものである。位置決め部材 4 , 4 は、ボックスカバー 3 に一体成形されており、ボックスカバー 3 と同様に、耐衝撃性を有するポリカーボネート樹脂等の合成樹脂等で構成されている。

【 0 0 3 7 】

位置決め部材 4 , 4 は、その先端 (図 2 の右側) に略円柱状の位置決め突起 4 a , 4 a がそれぞれ突設されている。これらの位置決め突起 4 a , 4 a は、その外形が後述する主制御基板 7 に穿設される位置決め穴 7 g , 7 g の開口形状に適合して形成されており、かかる位置決め穴 7 g , 7 g に嵌合可能に形成されている。よって、位置決め突起 4 a , 4 a が主制御基板 7 の位置決め穴 7 g , 7 g に嵌合することにより、主制御基板 7 をボックスカバー 3 に位置決めすることができる。しかも、かかる位置決め部材 4 , 4 が主制御基板 7 の各位置決め穴 7 g , 7 g に嵌合することにより、主制御基板 7 はボックスカバー 3 に引っ掛けられるので、ボックスカバー 3 がスライドされる場合に、ボックスカバー 3 と共に主制御基板 7 をボックススペース 2 の収容空間 2 d 内で矢印 A 方向へ向けてスライドさせることができるのである。

【 0 0 3 8 】

また、各位置決め部材 4 , 4 の各位置決め突起 4 a , 4 a は、その突出長さが主制御基板 7 の板厚より小さく形成されており、主制御基板 7 の位置決め穴 7 g , 7 g 内に嵌合される場合に、主制御基板 7 の半田面 7 2 側から突出することが防止されている (図 3 参照)。よって、ボックスカバー 3 と共に主制御基板 7 をボックススペース 2 の収容空間 2 d 内でスライドさせる場合に、位置決め部材 4 , 4 の各位置決め突起 4 a , 4 a がボックススペース 2 の底板 2 a などに引っ掛かることが防止されるので、主制御基板 7 を収容空間 2 d 内で円滑にスライドさせることができるのである。

【 0 0 3 9 】

ボックスカバー 3 における側壁板 3 d の反対側縁部 (図 2 の左側) には、その長手方向 (図 2 の上下方向) のほぼ全域に、天板 3 a から主制御基板 7 側へ向けて仕切部材 5 が立

設されている。この仕切部材 5 は、ボックススペース 2 と一体成形されており、ボックススペース 2 と同様に、耐衝撃性を有するポリカーボネート樹脂等の合成樹脂等で構成されている。

【 0 0 4 0 】

仕切部材 5 は、ボックスカバー 3 の天板 3 a に対して略直角方向へ向けて接続されつつ立設される略板状の仕切り板 5 a と、その仕切り板 5 a における天板 3 a の反対側端部からボックスカバー 3 の外方（図 2 の左方）へ向けて略直角に延出される略平板状の覆設板 5 b とを備えている。仕切部材 5 は、基板ボックス 1 内に主制御基板 7 が収納された場合に、主制御基板 7 におけるコネクタ 7 b ~ 7 f 配置側縁部に配置されるように構成されており、その仕切り板 5 a により基板ボックス 1 の内外部を仕切り、基板ボックス 1 の外部からの主制御基板 7 への接触行為を防止することができる。

【 0 0 4 1 】

仕切り板 5 a は、その長手方向（図 2 の上下方向）両側に、ボックスカバー 3 をボックススペース 2 に固定するビス 9 , 9 が挿入可能な通穴 5 c , 5 c がそれぞれ穿設されている。各通穴 5 c , 5 c は、ボックスカバー 3 の天板 3 a 外面（図 2 の裏側面）から仕切部材 5 の覆設板 5 b 側端面（図 2 の手前側面）に貫通してそれぞれ穿設されるとともに、後述する主制御基板 7 の各通穴 7 a , 7 a にそれぞれ対応して穿設されている。よって、基板ボックス 1 内に主制御基板 7 が収納された場合には、図 4 に示すように、ビス 9 , 9 を各通穴 5 c , 5 c にそれぞれ挿入することにより、これらのビス 9 , 9 のねじ部先端は、主制御基板 7 の各通穴 7 a , 7 a を通過しボックススペース 2 の底板 2 a に到達するので、各ビス 9 , 9 をボックススペース 2 の底板 2 a にねじ込み、仕切部材 5 を介して、ボックスカバー 3 及び主制御基板 7 をボックススペース 2 にまとめてねじ止めすることができる。

【 0 0 4 2 】

また、図 2 に示すように、仕切部材 5 の覆設板 5 a には、主制御基板 7 との当接面（図 2 手前側面）に正面視略矩形状に形成された 5 つのコネクタ口 5 d ~ 5 h が穿設されている。この各コネクタ口 5 d ~ 5 h は、その断面形状が後述する主制御基板 7 に配置された 5 つのコネクタ 7 b ~ 7 f の外形に適合してそれぞれ形成されており、かかるコネクタ 7 b ~ 7 f が挿嵌可能に形成されている。

【 0 0 4 3 】

よって、図 4 に示すように、仕切部材 5 が主制御基板 7 の縁部（図 4 の右側）に配置される場合には、主制御基板 7 の各コネクタ 7 b ~ 7 f を仕切部材 5 の各コネクタ口 5 d ~ 5 h に挿嵌された各コネクタ 7 b ~ 7 f を基板ボックス 1 の外部に露出させることができるのである。しかも、覆設板 5 b は、その各コネクタ口 5 d ~ 5 h の断面形状が各コネクタ 7 b ~ 7 f の外形に適合して形成されているので、各コネクタ口 5 d ~ 5 h から主制御基板 7 における各コネクタ 7 b ~ 7 f 以外の部分を覆い隠して、主制御基板 7 への接触行為を防止できる。

【 0 0 4 4 】

また、これらのコネクタ口 5 d ~ 5 h は、その断面形状が主制御基板 7 の各コネクタ 7 b ~ 7 f の外形に適合して形成されているので、これらの各コネクタ 7 b ~ 7 f が挿嵌されることにより、主制御基板 7 を仕切部材 5 の所定位置に位置決めすることもできる。しかも、主制御基板 7 は、そのコネクタ 7 b ~ 7 f 及び覆設板 5 b のコネクタ口 5 d ~ 5 h を介して、仕切部材 5 に引っ掛けられるので、ボックスカバー 3 がスライドされる場合に、ボックスカバー 3 及び仕切部材 5 と共に主制御基板 7 をボックススペース 2 の収容空間 2 d 内で矢印 A 方向へ向けてスライドさせることができるのである。

【 0 0 4 5 】

仕切部材 5 の長手方向（図 2 の上下方向）両側近傍には、天板 3 a 側端（図 2 の左側）から覆設板 5 b 側端（図 2 の右側）へ向けて略円柱状の位置決め部材 6 , 6 がそれぞれ立設されている。この一对の位置決め部材 6 , 6 は、後述する主制御基板 7 を仕切部材 5 の所定位置に位置決めするためのものである。位置決め部材 6 , 6 は、ボックスカバー 3 及び仕切部材 5 に一体成形されており、ボックスカバー 3 及び仕切部材 5 と同様に、耐衝撃

性を有するポリカーボネート樹脂等の合成樹脂等で構成されている。

【0046】

位置決め部材6, 6は、その先端(図2の右側)に略円柱状の位置決め突起6a, 6aがそれぞれ突設されている。これらの位置決め突起6a, 6aは、その外形が後述する主制御基板7に穿設される位置決め穴7h, 7hの開口形状に適合して形成されており、かかる位置決め穴7h, 7hに嵌合可能に形成されている。よって、位置決め突起6a, 6aが主制御基板7の位置決め穴7h, 7hに嵌合することにより、主制御基板7を仕切部材5の所定位置に位置決めすることができる。しかも、かかる位置決め部材6, 6が主制御基板7の各位置決め穴7h, 7hに嵌合することにより、主制御基板7はボックスカバー3及び仕切部材5に引っ掛けられるので、ボックスカバー3及び仕切部材5がスライドされる場合に、これらと共に主制御基板7をボックススペース2の収容空間2d内で矢印A方向へ向けてスライドさせることができるのである。

【0047】

このように、仕切部材5が一体成形されたボックスカバー3によれば、上述した位置決め部材4, 4及び位置決め部材6, 6により、主制御基板7の四隅が位置決めされるので、主制御基板7をガタつかせることなくボックスカバー3に仮止めすることができるのである。

【0048】

しかも、かかる位置決め部材4, 4及び位置決め部材6, 6は、その位置決め突起4a, 4a及び位置決め突起6a, 6aが主制御基板7の各位置決め穴7g, 7g及び位置決め穴7h, 7hにそれぞれ嵌合され、主制御基板7の四隅を位置決めするので、ボックスカバー3がボックススペース2に対して相対的にスライドされる場合に、収容空間2d内でスライドされる主制御基板7がそのスライド方向に対して傾きズレることを防止して、円滑にスライドさせることができる。

【0049】

また、各位置決め部材6, 6の各位置決め突起6a, 6aは、その突出長さが主制御基板7の板厚より小さく形成されており、主制御基板7の位置決め穴7h, 7h内に嵌合される場合に、主制御基板7の半田面72側から突出することが防止されている。よって、ボックスカバー3と共に主制御基板7をボックススペース2の収容空間2d内でスライドさせる場合に、位置決め部材6, 6の各位置決め突起6a, 6aがボックススペース2の底板2aなどに引っ掛かることが防止されるので、主制御基板7を収容空間2d内で円滑にスライドさせることができるのである。

【0050】

主制御基板7は、ボックスカバー3の天板3aと対向する部品面71にパチンコ機Pの遊技内容に関する制御プログラムやデータを記憶したROM等の電子部品(図示せず)が搭載されるものであり、矩形薄板状に形成されている。この主制御基板7は、仕切部材5に対向する縁部(図2の左側)における長手方向(図2の上下方向)両端近傍に上述したビス9, 9が挿入可能な2つの通穴7a, 7aがそれぞれ穿設されている。また、主制御基板7の部品面71における仕切部材5との対向部分(図2の左側)には複数(5個)の雄型のコネクタ7b~7fが配置されている。これらのコネクタ7b~7fは、図4に示すように、仕切部材5が主制御基板7の右側縁部に配置される場合に、仕切部材5の各コネクタ口5d~5hに挿嵌可能にそれぞれ形成されている。よって、かかる各コネクタ7b~7fを仕切部材5の各コネクタ口5d~5hに挿嵌することにより、各コネクタ7b~7fを基板ボックス1の外部に露出させることができるのである。

【0051】

また、図2に示すように、主制御基板7の上部に配置されるコネクタ7bは、アース線(配線部材)の一端に配設される雌型のコネクタBが嵌合可能に形成されている。また、他のコネクタ7c~7fには、フラットケーブル(配線部材)の一端に配設される雌型のコネクタC~Fが嵌合可能に形成されている。尚、図2では、アース線およびフラットケーブルの図示を省略している。

【 0 0 5 2 】

また、主制御基板 7 の一側縁部（図 2 右側）には、上述した位置決め部材 4 , 4 の各位置決め突起 4 a , 4 a に対応して、開口形状が略円形状の位置決め穴 7 g , 7 g がそれぞれ突設される一方、主制御基板 7 の他側縁部（図 2 左側）には、上述した位置決め部材 6 , 6 の各位置決め突起 6 a , 6 に対応して、開口形状が略円形状の位置決め穴 7 h , 7 h がそれぞれ突設されている。位置決め穴 7 g , 7 g は、その開口形状が上述した位置決め突起 4 a , 4 a の外形に適合して形成されており、かかる位置決め突起 4 a , 4 a を嵌合可能に形成されている。一方、位置決め穴 7 h , 7 h は、その開口形状が上述した位置決め突起 6 a , 6 a の外形に適合して形成されており、かかる位置決め突起 6 a , 6 a を嵌合可能に形成されている。

【 0 0 5 3 】

また、ボックスベース 2 の底板 2 a の裏面には、パチンコ機 P に配設される取付部材 P 1（図 1 参照）に基板ボックス 1 を掛止するためのボックスロック板 8 が取着される。このボックスロック板 8 は透明な A B S 樹脂等の合成樹脂等で略台形薄板状に形成されており、ボックスベース 2 の底板 2 a の裏面（図 2 の奥側）にねじ止め等により取着されている。

【 0 0 5 4 】

図 4 は、基板ボックス 1 の組立後の外観斜視図である。図 4 に示すように、ボックスカバー 3 の前面上下部分には上述したビス 9 , 9 が挿入可能な 5 c , 5 c がそれぞれ穿設されている。この各通穴 5 c , 5 c は、上述した主制御基板 7 の各通穴 7 a , 7 a に対応して穿設されており、ボックスベース 2 にボックスカバー 3 を覆設した場合に、ボックスカバー 3 の天板 3 a 外面側（図 4 の手前側面）から各通穴 5 c , 5 c へそれぞれ挿入されたビス 9 , 9 を主制御基板 7 の各通穴 7 a , 7 a を通過させてボックスベース 2 の底板 2 a にねじ込み、ボックスカバー 3、仕切部材 5 及び主制御基板 7 をボックスベース 2 にまとめて固定することができる。

【 0 0 5 5 】

ボックスカバー 3 における各通穴 5 c , 5 c が穿設された部分には、封印シール 1 0 , 1 0 が貼付されている。この封印シール 1 0 , 1 0 は、特殊な粘着材が塗布されたシール材で構成されており、この封印シール 1 0 , 1 0 が貼付された後に剥がされると、シール材から粘着材が剥がれてしまう。よって、一度剥がされた封印シール 1 0 , 1 0 を再度貼付することができないので、封印シール 1 0 , 1 0 が不正に剥がされた場合には、かかる不正行為を容易に発見することができるのである。

【 0 0 5 6 】

また、封印シール 1 0 , 1 0 は、ボックスベース 2 とボックスカバー 3 とに跨って貼付され、基板ボックス 1 の開封を防止するように貼付される。この場合、各封印シール 1 0 , 1 0 は各通穴 5 c , 5 c に覆い被さるように貼付されるので、各通穴 5 c , 5 c に挿入されたビス 9 , 9 の抜き取り行為を防止することができるのである。

【 0 0 5 7 】

図 5（a）は、図 4 の V a - V a 線における係止枠 2 e 1 及び係止爪 3 d 1 の側断面図であり、図 5（b）は、図 4 の V b - V b 線における遮蔽板 3 d 2 の側断面図であり、図中では、理解を容易にするため、主制御基板 7 の部品面 7 1 に搭載される各種電子部品の図示を省略している。図 5（a）に示すように、ボックスカバー 3 の側壁板 3 d は、上述した係止枠 2 e 1 及び係止爪 3 d 1 によってボックスベース 2 の側壁板 2 e と連結され、この連結によりボックスカバー 3 がボックスベース 2 に対して開閉可能に結合されている。

【 0 0 5 8 】

ここで、係止爪 3 d 1 は、その略 J 字状の先端部分が係止枠 2 e 1 の係止溝 2 e 2 内に挿入され、係止枠 2 e 1 の下端部（図 5（a）左下側）に引っ掛けられて係止されている。かかる状態で、ボックスベース 2 の側壁板 2 e は、ボックスカバー 3 の側壁板 3 d と連結されるので、例えば、薄板状の工具等を側壁板 2 e と側壁板 3 d との合わせ目、即ち、

段部 3 d 3 と側壁板 2 e との間へ差し込んで、かかる合わせ目を離間させてこじ開けられる場合に、薄板状の工具による持ち上げ量を制限することができる。よって、かかる持ち上げ量の制限により、側壁板 2 e と側壁板 3 d との合わせ目に大きな隙間を開けることができない。

【 0 0 5 9 】

図 5 (b) に示すように、遮蔽板 3 d 2 は、ボックススペース 2 の側壁板 2 e の立設位置より内側 (図 5 (b) 右側) 位置へ向けて立設され、その側壁板 2 e , 3 d の対向面間 (即ち、段部 3 d 3) より更にボックススペース 2 側 (図 5 (b) 下側) へ延出されている。また、遮蔽板 3 d 2 の板厚は側壁板 3 d の板厚より小さく形成されており、このため、遮蔽板 3 d 2 と側壁板 3 d との間部分には段部 3 d 3 が設けられている。この段部 3 d 3 の端面は、ボックススペース 2 の側壁板 2 e における上端面と当接されている。このようにして、側壁板 2 e , 3 d 、遮蔽板 3 d 2 及び段部 3 d 3 の合わせ目は合決り (あいじゃくり) 状に接合されている。

【 0 0 6 0 】

また、遮蔽板 3 d 2 における側壁板 2 e との対向面 (図 5 (b) 左側) には勾配面 M が設けられている。この勾配面 M は、遮蔽板 3 d 2 の先端側 (図 5 (b) 下側) へ向かうに従って、遮蔽板 3 d 2 の板厚を漸減するように傾斜されている。このため、ボックスカバー 3 をボックススペース 2 に覆設する場合に、勾配面 M によって遮蔽板 3 d 2 を側壁板 2 e の立設位置より内側へ案内して、ボックススペース 2 及びボックスカバー 3 を容易に合致させることができる。

【 0 0 6 1 】

更に、側壁板 2 e における遮蔽板 3 d 2 の勾配面 M との対向面は、その勾配面 M と同方向に傾斜されており、この勾配面 M と当接されている。このように、側壁板 2 e は遮蔽板 3 d 2 の勾配面 M と当接されるので、側壁板 2 e と遮蔽板 3 d 2 の勾配面 M との間に隙間ができることがない。よって、このような隙間に薄板状の工具等を差し込んで基板ボックス 1 をこじ開けることが防止され、基板ボックス 1 に被包された主制御基板 7 への不正行為を防止することができる。

【 0 0 6 2 】

しかも、側壁板 3 d の外面 (図 5 (b) 左側) はボックススペース 2 における側壁板 2 e の外面 (図 5 (b) 左側) と略面一状に合致されている。よって、ボックススペース 2 とボックスカバー 3 との合わせ目、即ち、側壁板 2 e と側壁板 3 d との対向部分に指などを引っ掛けることができず、基板ボックス 1 をこじ開け難くすることができる。

【 0 0 6 3 】

次に、図 6 から図 8 を参照して基板ボックス 1 に配設されたボックス封印具 1 0 について説明する。図 6 は、基板ボックス 1 に配設されたボックス封印具 1 0 の拡大斜視図である。図 6 に示すように、ボックス封印具 1 0 は、基板ボックス 1 を封印するための封印ねじ 1 1 と、その封印ねじ 1 1 が螺入されるナット 1 2 と、封印ねじ 1 1 を係止するための係止座金 (抜け止め手段) 1 3 と、ナット 1 2 および係止座金 1 3 が配置される 4 つの封印部材 2 1 を有する封印ユニット 2 0 と、各封印部材 2 1 に対向してボックスカバー 3 に配設される 4 つの封印部材 3 1 を有する封印ユニット 3 0 と、封印ねじ 1 1 の予備用の部材である予備ねじ 1 4 とを備えている。

【 0 0 6 4 】

封印ねじ 1 1 は、封印ユニット 2 0 , 3 0 における各封印部材 2 1 , 3 1 を連結するためのものであり、ステンレス鋼材等の金属材料で構成されている。封印ねじ 1 1 は、封印部材 2 1 , 3 1 に挿入される略円柱状の軸部 1 1 a を備え、その軸部 1 1 a の先端部 1 1 c には係止座金 1 3 の内孔 1 3 b を押し広げるための先細状のテーパ部 T 1 が形成され、そのテーパ部 T 1 の上部には係止座金 1 3 の内孔 1 3 b が埋り込み可能な係止溝 1 1 f が周設されている。

【 0 0 6 5 】

この係止溝 1 1 f の上部にはおねじの螺刻されたおねじ部 1 1 d が形成されており、お

ねじ部 1 1 d はナット 1 2 内に螺刻されたためねじ部 1 2 c に螺合可能に形成されている。また、おねじ部 1 1 d の上部には円柱状の非おねじ部 1 1 e が形成されており、非おねじ部 1 1 e の外径はナット 1 2 のめねじ部 1 2 c の内径より小さく形成されている。よって、封印ねじ 1 1 がナット 1 2 に螺入され基板ボックス 1 が封印された場合、封印ねじ 1 1 の非おねじ部 1 1 e をナット 1 2 のめねじ部 1 2 c 内に挿設することができる（図 8 参照）。

【 0 0 6 6 】

軸部 1 1 a の上端には略半球状の頭部 1 1 b が一体成形されている。頭部 1 1 b は、その外径が軸部 1 1 a の外径より大きく形成され、封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a に係合可能に形成されている。また、頭部 1 1 b の上面には、スクリュードライバ等のねじ回し工具が係合可能な上面視略十字状の係合溝 1 1 g が凹設されている。よって、この係合溝 1 1 g にスクリュードライバ等のねじ回し工具を係合させることにより、封印ねじ 1 1 をねじ込み方向および反ねじ込み方向の双方に回転することができる。尚、封印ねじ 1 1 と予備ねじ 1 4 は略同一形状に形成されているので、予備ねじ 1 4 の説明は省略する。

【 0 0 6 7 】

ナット 1 2 は、封印ねじ 1 1 および係止座金 1 3 を封印部材 2 1 内に保持するためのものであり、封印部材 2 1 に嵌合可能に形成されている。ナット 1 2 は、真鍮等の金属材料から構成されており、略円盤状に形成されたナット頭部 1 2 a と、そのナット頭部 1 2 a より外径が小さく形成された略円柱状の円筒部 1 2 b と、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d に螺合可能なめねじが形成されためねじ部 1 2 c と、そのめねじ部 1 2 c に連通して穿設された保持穴 1 2 e （図 8 参照）とを備えている。

【 0 0 6 8 】

ナット頭部 1 2 a は、封印部材 2 1 の嵌合穴 2 1 a に嵌合可能に形成されており、そのナット頭部 1 2 a の下方に形成された円筒部 1 2 b は、封印部材 2 1 の嵌合穴 2 1 b に嵌合可能に形成されている。この円筒部 1 2 b の外周面にはローレット切りが施されているので、嵌合穴 2 1 b に嵌合された際に円筒部 1 2 b の外周面を嵌合穴 2 1 b の内壁に引っ掛けることができる。よって、ナット 1 2 を嵌合穴 2 1 b 内に保持することができ、ナット 1 2 の抜き取りを抑制することができる（図 8 参照）。

【 0 0 6 9 】

係止座金 1 3 は、封印ねじ 1 1 の係止溝 1 1 f を介して、封印ねじ 1 1 を封印部材 2 1 内に係止するためのものであり、パネ鋼材等を用いて上面視略 O 字形に形成されたブッシュナットである。係止座金 1 3 は、その略中央部分に略すり鉢状に凹設された受け部 1 3 a を有しており、この受け部 1 3 a の略中央部分には、略円形状の内孔 1 3 b が穿設されている。このため、この係止座金 1 3 の受け部 1 3 a は、封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c を、内孔 1 3 b へと案内することができる。

【 0 0 7 0 】

受け部 1 3 a には、複数の切欠が略等配分で設けられており、かかる切欠は内孔 1 3 b に連通して形成されている。よって、係止座金 1 3 の内孔 1 3 b に封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c が挿入された場合に、先端部 1 1 c のテーパ部 T 1 を介して受け部 1 3 a を弾性変形させて、係止座金 1 3 の内孔 1 3 b を押し広げることができるのである。尚、係止座金 1 3 は、封印部材 2 1 の嵌合穴 2 1 b 内であって、ナット 1 2 の下方に配置される（図 8 参照）。

【 0 0 7 1 】

封印ユニット 2 0 は、封印ねじ 1 1 および封印ユニット 3 0 を介して、基板ボックス 1 を封印するためのものである。封印ユニット 2 0 は、ボックスベース 2 と同様に、ポリカーボネート樹脂等の耐衝撃性を有する透明な合成樹脂材料で形成されており、ボックスベース 2 の側壁 2 b , 2 c にそれぞれ配設されている（図 2 参照）。この封印ユニット 2 0 は、ナット 1 2 および係止座金 1 3 が配置される 4 つの封印部材 2 1 と、各封印部材 2 1 とボックスベース 2 の側壁 2 b （側壁 2 c ）とを互いに連結する 4 つの連結部材 2 2 と、封印ねじ 1 1 の予備用の部材である予備ねじ 1 4 を保持するために設けられた 3 つの予備

ねじ保持部材 2 3 とを備えている。

【 0 0 7 2 】

封印部材 2 1 は、略円柱状に形成されており、その一部が平板状の連結部材 2 2 によりボックススペース 2 の側壁 2 b に連結されている。連結部材 2 2 により連結された封印部材 2 1 とボックススペース 2 の側壁 2 b との間には、ニッパ等の工具の刃先が入り込むことが可能な間隔が形成されており、連結部材 2 2 を切断して封印部材 2 1 を除去する場合に、ニッパ等の工具を用いて連結部材 2 2 を容易に切断することができる。尚、図 2 に示すように、ボックススペース 2 の側壁 2 c にも同様に、連結部材 2 2 により封印部材 2 1 が連結されている。

【 0 0 7 3 】

図 6 に示すように、ボックススペース 2 の側壁 2 b に配設された 4 つの封印部材 2 1 のうち、図 6 の右側に配設された 3 つの封印部材 2 1 の外周面の一側（図 6 の左側）には予備ねじ保持部材 2 3 がそれぞれ一体に形成されている。この予備ねじ保持部材 2 3 は、予備ねじ 1 4 を保持するためのものであり、その上面には、予備ねじ 1 4 を挿入可能に形成された予備ねじ保持穴 2 3 a が穿設されている。予備ねじ保持穴 2 3 a は略 C 字形に形成されており、その一部には切欠が設けられている。よって、予備ねじ保持穴 2 3 a 内への予備ねじ 1 4 の挿入に伴って、予備ねじ保持穴 2 3 a の内径を拡大することができる。尚、図 2 に示すように、ボックススペース 2 の側壁 2 c に配設された封印ユニット 2 0 にあっては、4 つの封印部材 2 1 のうち、右側（図 2 の右側）に配設された 3 つの封印部材 2 1 の外周面の左側（図 2 の左側）に、予備ねじ保持部材 2 3 がそれぞれ一体に形成されている。

【 0 0 7 4 】

封印部材 2 1 の上面部分、即ち、封印部材 3 1 との当接面（対向面）であって、側壁 2 b 側の半周部分には、上面視略 C 字状の周壁 2 4 が上方へ向けて凸設されている。この周壁 2 4 は封印部材 3 1 の下面外周に凹設された嵌合溝 3 5（図 7 参照）に適合して形成されており、ボックスカバー 3 がボックススペース 2 に覆設され封印部材 2 1, 3 1 が合致された場合に、かかる周壁 2 4 を封印部材 3 1 の嵌合溝 3 5 に填め込むことができる。また、封印部材 2 1 の上面部分であって、側壁 2 b と反対側の半周部分には、上面視略 C 字状の段差である嵌合溝 2 5 が凹設されている。この嵌合溝 2 5 は封印部材 3 1 の下面外周に凸設された周壁 3 4 に適合して形成されており、ボックスカバー 3 がボックススペース 2 に覆設され封印部材 2 1, 3 1 が合致された場合に、かかる嵌合溝 2 5 に封印部材 3 1 の周壁 3 4 を填め込むことができる。

【 0 0 7 5 】

尚、ボックススペース 2 の側壁 2 c に配設された封印ユニット 2 0 の各封印部材 2 1 では、周壁 2 4 は、封印部材 3 1 との当接面であって、側壁 2 c の反対側の半周部分に凸設され、かつ、嵌合溝 2 5 は封印部材 3 1 との当接面であって、側壁 2 c 側の半周部分に凹設されている。

【 0 0 7 6 】

封印ユニット 3 0 は、封印ねじ 1 1 と封印ユニット 2 0 とを介して、基板ボックス 1 を封印するためのものである。封印ユニット 3 0 は、ボックスカバー 3 と同様に、ポリカーボネート樹脂等の耐衝撃性を有する透明な合成樹脂材料で形成されており、基板ボックス 1 のボックスカバー 3 の側壁 3 b、3 c にそれぞれ配設されている。この封印ユニット 3 0 は、封印ねじ 1 1 が係合される 4 つの封印部材 3 1 と、各封印部材 3 1 とボックスカバー 3 の側壁 3 b（側壁 3 c）とを互いに連結するための 4 つの連結部材 3 2 と、予備ねじ 1 4 の頭部 1 1 b の上方を覆う 3 つの予備ねじ保持板 3 3 とを備えている。

【 0 0 7 7 】

各封印部材 3 1 は、それぞれ略円柱状に形成されており、封印ユニット 2 0 の各封印部材 2 1 のそれぞれと対向しつつ、連結部材 3 2 によりボックスカバー 3 の側壁 3 b に連結されている。また、連結部材 3 2 により連結された封印部材 3 1 とボックスカバー 3 の側壁 3 b との間には、ニッパ等の工具の刃先が入り込むことが可能な間隔が形成されている。

。よって、連結部材 3 2 を切断して封印部材 3 1 を除去する場合に、ニッパ等の工具を用いて連結部材 3 2 を容易に切断することができる。尚、図 2 に示すように、ボックスカバー 3 の側壁 3 c にも同様に、連結部材 3 2 により封印部材 3 1 が連結されている。

【 0 0 7 8 】

各封印部材 3 1 の上面には、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b と係合される係合穴 3 1 a と、その係合穴 3 1 a に連通した挿入穴 3 1 b (図 8 参照) とが穿設されている。係合穴 3 1 a の内径は、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b の外径より大きく形成されており、その深さ、即ち、封印部材 3 1 の上面から係合穴 3 1 a の底面までの長さは、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b の長さより大きく形成されている。よって、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b を封印部材 3 1 の上面から突出させることなく、封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a 内に係合させることができる (図 8 参照) 。

【 0 0 7 9 】

図 6 に示すように「、ボックスカバー 3 の側壁 3 b に配設された 4 つの封印部材 3 1 のうち、図 6 の左側に配設された 3 つの封印部材 3 1 の外周面の一侧 (図 6 の右側) には、略平板状の予備ねじ保持板 3 3 がそれぞれ一体に形成されている。この予備ねじ保持板 3 3 は、予備ねじ保持部材 2 3 に保持された予備ねじ 1 4 の頭部 1 1 b を上方から押さえるためのものである。各予備ねじ保持板 3 3 の上面には、「 2 」から「 4 」までの番号表示 K がそれぞれ表示されている。各番号表示 K は、封印ユニット 3 0 の成形と同時に型枠を用いて形成されており、各一对の封印部材 2 1 , 3 1 が封印される順番を表している。尚、この各番号表示 K を付す方法としては、「 2 」から「 4 」の数字を印刷した合成樹脂等のシート等を各予備ねじ保持板 3 3 の上面に貼付等したりしても良い。

【 0 0 8 0 】

各予備ねじ保持板 3 3 は、それらが形成されている各封印部材 3 1 に対向する封印部材 2 1 の右側に隣接する封印部材 2 1 の予備ねじ保持部材 2 3 に保持されている予備ねじ 1 4 を上方から押さえることができる。例えば、「 2 」の番号表示 K が付された予備ねじ保持板 3 3 は、その右側に隣接する (側壁 3 b の最も右側に位置する) 封印部材 3 1 と対向する封印部材 2 1 の予備ねじ保持部材 2 3 に保持された予備ねじ 1 4 の頭部 1 1 b の上方に覆設され、予備ねじ 1 4 を押さえることができる。

【 0 0 8 1 】

また、予備ねじ保持板 3 3 及び予備ねじ保持部材 2 3 により保持された予備ねじ 1 4 を取り出す場合には、封印ねじ 1 1 により連結された封印部材 2 1 , 3 1 における連結部材 2 2 及び連結部材 3 2 を切断すると、その封印部材 2 1 , 3 1 が基板ボックス 1 から外され、その封印部材 2 1 の予備ねじ保持部材 2 3 に保持された予備ねじ 1 4 が予備ねじ保持板 3 3 から離れる。その結果、切断された封印部材 2 1 の予備ねじ保持穴 2 3 a から予備ねじ 1 4 を容易に取り外すことができるとともに、かかる予備ねじ 1 4 を用いて、別の封印部材 2 1 , 3 1 を連結して、基板ボックス 1 を再度封印することができる。

【 0 0 8 2 】

尚、図 2 に示すように、ボックスカバー 3 の側壁 3 c に配設された封印ユニット 3 0 には、4 つの封印部材 3 1 のうち、右側 (図 2 の右側) に配設された 3 つの封印部材 3 1 の外周面の左側 (図 2 の左側) に、予備ねじ保持板 3 3 がそれぞれ一体に形成されている。

【 0 0 8 3 】

図 7 は、天板 3 a を下方へ向けた状態のボックスカバー 3 の部分的拡大図である。図 7 に示すように、封印部材 3 1 の上面部分、即ち、封印部材 2 1 との当接面 (対向面) であって、側壁 3 b と反対側の半周部分には、上面視略 C 字状の周壁 3 4 が上方へ向けて凸設されている。この周壁 3 4 は封印部材 2 1 に凹設された嵌合溝 2 5 (図 6 参照) に適合して形成されており、ボックスカバー 3 がボックススペース 2 に覆設され封印部材 2 1 , 3 1 が合致された場合に、かかる周壁 3 4 を封印部材 3 1 の嵌合溝 2 5 に詰め込むことができる。また、封印部材 3 1 の上面部分であって、側壁 3 b 側の半周部分には、上面視略 C 字状の段差である嵌合溝 3 5 が凹設されている。この嵌合溝 3 5 は封印部材 2 1 に凸設され

た周壁 2 4 に適合して形成されており、ボックスカバー 3 がボックスベース 2 に覆設され封印部材 2 1 , 3 1 が合致された場合に、封印部材 2 1 の周壁 2 4 を埋め込むことができるのである。

【 0 0 8 4 】

尚、ボックスカバー 3 の側壁 3 c に配設された封印ユニット 3 0 の各封印部材 3 1 では、周壁 3 4 は封印部材 2 1 との当接面であって、側壁 3 c 側の半周部分に凸設され、かつ、嵌合溝 3 5 は封印部材 2 1 との当接面であって、側壁 3 c と反対側の半周部分に凹設されている。

【 0 0 8 5 】

図 8 は、基板ボックス 1 を封印した状態におけるボックス封印具 1 0 の部分断面図であり、図中の矢印 A はボックスカバー 3 のスライド方向を示している。図 8 に示すように、上述したナット 1 2 および係止座金 1 3 は、封印部材 2 1 の内部に配置されており、ナット 1 2 の円筒部 1 2 b の下方にストッパ材 1 3 が配置されている。ナット 1 2 のめねじ部 1 2 c の内径は、封印ねじ 1 1 の非おねじ部 1 1 e の外径と比較して大きく形成されており、めねじ部 1 2 c 内に非おねじ部 1 1 e を挿設することができる。また、保持穴 1 2 e は、めねじ部 1 2 c と連通して穿設されており、その内径は封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d の外径より大きく形成されている。よって、封印ねじ 1 1 がナット 1 2 のめねじ部 1 2 c に螺入されて基板ボックス 1 が封印された場合、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d を保持穴 1 2 e 内に挿設することができる。

【 0 0 8 6 】

封印部材 2 1 の内部には、内径の異なる複数の同心状の嵌合穴 2 1 a , 2 1 b , 2 1 c が連通してそれぞれ形成されており、これらの内径は嵌合穴 2 1 a , 2 1 b , 2 1 c の順に大きく形成されている。嵌合穴 2 1 a は、封印部材 2 1 の上面に形成されており、ナット 1 2 のナット頭部 1 2 a が嵌合可能に形成されている。この嵌合穴 2 1 a の深さ、即ち、封印部材 2 1 の上面から嵌合穴 2 1 a の底面までの長さはナット 1 2 のナット頭部 1 2 a の厚さ（軸方向長さ）と略同一に形成されている。よって、嵌合穴 2 1 a に嵌合されたナット 1 2 の上端部が封印部材 2 1 の上面から突出することを防止することができる。従って、ボックスカバー 3 をボックスベース 2 に対して矢印 A 方向へスライドさせる際に、封印部材 3 1 の下面部分がナット 1 2 の上端部分に引っ掛かることが防止されるので、ボックスカバー 3 を滑らかにスライドさせて、封印部材 2 1 , 3 1 を合致させることができる。

【 0 0 8 7 】

嵌合穴 2 1 b は、嵌合穴 2 1 a に連通して形成されており、ナット 1 2 の円筒部 1 2 b が嵌合可能に形成されている。この嵌合穴 2 1 b の深さ、即ち、嵌合穴 2 1 a の底面から嵌合穴 2 1 b の底面までの長さは、ナット 1 2 の円筒部 1 2 b の軸方向長さより大きく形成されており、円筒部 1 2 b の下面と嵌合穴 2 1 b の底面との間に係止座金 1 3 を保持する空間を形成することができる。また、嵌合穴 2 1 b と嵌合穴 2 1 c との連結部分には、面取り部 C が形成されており、係止座金 1 3 の受け部 1 3 a が嵌合される。よって、係止座金 1 3 は、面取り部 C を介して嵌合穴 2 1 b の底面に位置決めされるとともに、ナット 1 2 の円筒部 1 2 b 下面により押さえ付けられることがない。従って、係止座金 1 3 の内孔 1 3 b 内に封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c を容易に挿入することができるとともに、係止座金 1 3 を容易に弾性変形させることができる。

【 0 0 8 8 】

嵌合穴 2 1 c は、嵌合穴 2 1 b に連通して形成されており、封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c が嵌合可能に形成されている。この嵌合穴 2 1 c の深さ、即ち、嵌合穴 2 1 b の底面から嵌合穴 2 1 c の底面までの長さは、封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c の軸方向長さより大きく形成されており、嵌合穴 2 1 c の底面に封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c 下面を当接させてしまうことがない。

【 0 0 8 9 】

また、上述した封印部材 3 1 の挿入穴 3 1 b の内径は、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b の外

径より小さく形成されるとともに、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d の外径より大きく形成されている。よって、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d を挿入穴 3 1 b を貫通させて、ナット 1 2 のめねじ部 1 2 c に螺合させることができる。また、封印ねじ 1 1 の係止溝 1 1 f が係止座金 1 3 により係止されて封印ねじ 1 1 が封印部材 2 1 内に取り外し不可能な状態で保持された場合、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b は係合穴 3 1 a 内に係合される。従って、封印部材 2 1 , 3 1 は封印ねじ 1 1 により分離不可能に連結され、基板ボックス 1 は開封不可能な状態で封印することができるのである。

【 0 0 9 0 】

図 8 に示すように、封印部材 2 1 , 3 1 が対向しつつ合致され封印ねじ 1 1 により連結された場合、封印部材 2 1 の上面部分に凸設された周壁 2 4 は、封印部材 3 1 の下面部分に凹設された嵌合溝 3 5 に埋り込み、封印部材 3 1 の下面部分に凸設された周壁 3 4 は、封印部材 2 1 の上面部分に凹設された嵌合溝 2 5 に埋り込んでいる。よって、封印部材 2 1 , 3 1 の当接面の間、即ち、周壁 2 4 と嵌合溝 3 5 との当接面の間、又は、周壁 3 4 と嵌合溝 2 5 との当接面の間へ薄板状の工具等を差し込み、封印ねじ 1 1 をナット 1 2 および係止座金 1 3 ごと封印部材 2 1 から引き抜き、基板ボックス 1 を開封しようとしても、薄板状の工具等の先端部分が周壁 2 4 , 3 4 又は嵌合溝 2 5 , 3 5 に引っ掛かるので、その差し込みを防止することができる。

【 0 0 9 1 】

例えば、図 8 の右側部分における嵌合溝 2 5 と周壁 3 4 との当接面の間へ薄板状の工具等を差し込んで、封印ねじ 1 1 をナット 1 2 および係止座金 1 3 ごと封印部材 2 1 から引き抜き、基板ボックス 1 を開封しようとしても、薄板状の工具等の先端部分が嵌合溝 2 5 に当たるので、薄板状の工具等の差し込みを防止することができる。従って、基板ボックス 1 のこじ開けが防止されて、基板ボックス 1 に収納された主制御基板 7 から R O M 等を取り外して交換し、パチンコ機 P の遊技内容を変更する不正行為を防止することができるのである。

【 0 0 9 2 】

図 9 は、予備ねじ 1 4 を保持した状態におけるボックス封印具 1 0 の部分断面図である。図 9 に示すように、上述した予備ねじ保持部材 2 3 の予備ねじ保持穴 2 3 a は、予備ねじ保持部材 2 3 の上端面側の内径（上端側内径）より、予備ねじ保持部材 2 3 の下端面側の内径（下端側内径）を小さくしたテーパ部 T 2 を有しており、その上端側内径は、予備ねじ 1 4 のおねじ部 1 1 d の外径と比較して大きく形成されている。よって、このテーパ部 T 2 を介して、予備ねじ 1 4 を予備ねじ保持穴 2 3 a 内へ容易に挿入することができる。また、予備ねじ保持穴 2 3 a の下端側内径は、予備ねじ 1 4 のおねじ部 1 1 d の外径と比較して小さく形成されている。よって、予備ねじ 1 4 を予備ねじ保持穴 2 3 a へ挿入した場合、予備ねじ 1 4 の頭部 1 1 b の下端面と予備ねじ保持部材 2 3 の上端面とが当接するまで、予備ねじ 1 4 が押し込まれると、予備ねじ保持穴 2 3 a の下端部分と予備ねじ 1 4 のおねじ部 1 1 d とが係合して、予備ねじ 1 4 を予備ねじ保持穴 2 3 a 内に取り外し可能な状態で保持することができる。

【 0 0 9 3 】

また、上述した封印部材 3 1 の予備ねじ保持板 3 3 は、予備ねじ保持部材 2 3 に保持された予備ねじ 1 4 の頭部 1 1 b の上方に覆設されており、予備ねじ保持板 3 3 の下面と予備ねじ 1 4 の頭部 1 1 b の頂部とは当接している。よって、予備ねじ 1 4 の頭部 1 1 b は予備ねじ保持板 3 3 により押さえられているので、予備ねじ 1 4 の抜け落ちが防止され、予備ねじ 1 4 の紛失を防止することができる。また、予備ねじ保持部材 2 3 に保持された予備ねじ 1 4 の頭部 1 1 b を掴んで、予備ねじ 1 4 を上方へ抜き取る不正行為等を防止することができる。尚、図 9 中の矢印 A はボックスカバー 3 のスライド方向を示している。

【 0 0 9 4 】

次に、上記のように構成された基板ボックス 1 による主制御基板 7 の収納方法について説明する。まず、ボックスカバー 3 の仕切部材 5 形成側面（図 2 の手前側面）と主制御基板 7 の部品面 7 1 側（図 2 の裏側面）とを対向させて、主制御基板 7 の位置決め穴 7 g ,

7 g に位置決め部材 4 , 4 の位置決め突起 4 a , 4 a を対向させる一方、主制御基板 7 の位置決め穴 7 h , 7 h に位置決め部材 6 , 6 の位置決め突起 6 a , 6 a を対向させる。その後、主制御基板 7 の位置決め穴 7 g , 7 g に位置決め突起 4 a , 4 a をそれぞれ嵌合させる一方、主制御基板 7 の位置決め穴 7 h , 7 h に位置決め突起 6 a , 6 a をそれぞれ嵌合させて、主制御基板 7 をボックスカバー 3 及び仕切部材 5 の所定位置に位置決めする。

【 0 0 9 5 】

この位置決め部材 4 , 4 , 6 , 6 による位置決めに伴って、主制御基板 7 は、そのコネクタ 7 b ~ 7 f が仕切部材 5 のコネクタ口 5 d ~ 5 h に挿嵌され、その部品面 7 1 におけるコネクタ 7 b ~ 7 f の配置側縁部 (図 2 の左側) が、長手方向 (図 2 の上下方向) 全域に亘って仕切部材 5 の覆設板 5 b により覆われる (図 4 参照) 。よって、かかる仕切部材 5 の覆設板 5 b により主制御基板 7 におけるコネクタ 7 b ~ 7 f 配置側縁部への接触行為を防止することができるのである。

【 0 0 9 6 】

一方、ボックスベース 2 の側壁 2 b , 2 c にそれぞれ配設された各封印部材 2 1 の嵌合穴 2 1 b 内に係止座金 1 3 を挿入し、その後、ナット 1 2 を嵌合穴 2 1 a , 2 1 b 内にそれぞれ嵌合させる。また、各封印ユニット 2 0 の各封印部材 2 1 に設けられた予備ねじ保持穴 2 3 a 内に予備ねじ 1 4 をそれぞれ挿入する。各予備ねじ 1 4 が各予備ねじ保持穴 2 3 a 内に完全に挿入された後、ボックスカバー 3 の主制御基板 7 側面にボックスベース 2 を対向させる。

【 0 0 9 7 】

ボックスベース 2 をボックスカバー 3 に対向させた後、ボックスカバー 3 の各係止爪 3 d 1 の先端部分をボックスベース 2 の各係止枠 2 e 1 の各係止溝 2 e 2 へ挿入して、各係止枠 2 e 1 に係止爪 3 d 1 を係止して、ボックスベース 2 とボックスカバー 3 との互いの開口面を合致させる。この合致により、ボックスベース 2 の底板 2 a に対してボックスカバー 3 の天板 3 a が対向されて、ボックスベース 2 にボックスカバー 3 が覆設され、ボックスベース 2 の収容空間 2 d 内に主制御基板 7 が収容される。この収容により、主制御基板 7 は、位置決め部材 4 , 6 とボックスベース 2 のスペーサ 2 a 1 ~ 2 a 5 との間に挟み込まれる。

【 0 0 9 8 】

ここで、ボックスカバー 3 がボックスベース 2 に覆設されると、ボックスカバー 3 の各遮蔽板 3 d 2 がボックスベース 2 の側壁板 2 e の内側に入り込み、各遮蔽板 3 d 2 によって、側壁板 3 d と側壁板 2 e との対向面間、即ち、合わせ目が遮蔽される。

【 0 0 9 9 】

また、ボックスカバー 3 とボックスベース 2 とが合致され、かつ、ボックスカバー 3 が矢印 A 方向へスライドされる以前の状態では、図 3 に示すように、収容空間 2 d の側壁板 2 c とその側壁板 2 c と対向する主制御基板 7 端部 (図 3 の下側端) との間に空隙 L 3 が設けられる一方、ボックスベース 2 の各係止枠 2 e 1 におけるボックスカバー 3 のスライド方向側 (図 3 の下側) に設けられた各制限壁 2 e 3 と各係止溝 2 e 2 に係止されたボックスカバー 3 の各係止爪 3 d 1 との間には、係止爪 3 d 1 と係止溝 2 e 2 の長手方向における差分長さ分の空隙 w 4 (= w 1 - w 2) が設けられる。

【 0 1 0 0 】

ボックスカバー 3 は、これらの空隙 L 3 , w 4 を介して、ボックスベース 2 及びボックスカバー 3 の合致後、ボックスベース 2 に対して相対的に矢印 A 方向へ向けてスライドされるのである。かかる場合に、収容空間 2 d 内に収容された主制御基板 7 は、その位置決め穴 7 g , 7 g , 7 h , 7 h に位置決め部材 4 , 4 , 6 , 6 の各位置決め突起 4 a , 4 a , 6 a , 6 a が嵌合されボックスカバー 3 に引っ掛けられているので、ボックスカバー 3 のスライドに伴って、スペーサ 2 a 1 ~ 2 a 5 との当接しつつ収容空間 2 d 内をスライドされる。

【 0 1 0 1 】

ボックスカバー 3 は、その各係止爪 3 d 1 が各係止溝 2 e 2 内を矢印 A 方向へ向けて摺

動することに伴って、ボックススペース 2 に対して矢印 A 方向へスライドされる。かかるスライドを続けると、各係止爪 3 d 1 は、各係止溝 2 e 2 内を矢印 A 方向へ向けて空隙 w 4 の長さ分摺動され、各係止棒 2 e 1 の各制限壁 2 e 3 と当接して摺動位置が制限されて、ボックスカバー 3 のスライドが停止される。一方、ボックスカバー 3 のスライドに伴って、ロック板 2 g , 3 e が結合板 3 f , 2 h の結合口 3 g , 2 i にそれぞれ挿入され、ロック板 2 g , 3 e が結合板 3 f , 2 h に係止されてボックススペース 2 とボックスカバー 3 とが結合される。

【0102】

また、ボックスカバー 3 が矢印 A 方向へスライドされると、封印部材 2 1 に凸設された周壁 2 4 は、封印部材 3 1 に凹設された嵌合溝 3 5 に埋り込み、封印部材 3 1 に凸設された周壁 3 4 は、封印部材 2 1 に凹設された嵌合溝 2 5 に埋り込み、封印部材 2 1 , 3 1 が合致される。

【0103】

このように合致された封印部材 2 1 , 3 1 によれば、その当接面（対向面）の間、即ち、周壁 2 4 と嵌合溝 3 5 との当接面の間、又は、周壁 3 4 と嵌合溝 2 5 との当接面の間へ薄板状の工具等を差し込み、封印ねじ 1 1 がナット 1 2 および係止座金 1 3 ごと封印部材 2 1 から引き抜き基板ボックス 1 を開封しようとしても、薄板状の工具等の先端部分が周壁 2 4 , 3 4 又は嵌合溝 2 5 , 3 5 に引っ掛かるので、その差し込みが防止される。一方、封印部材 2 1 , 3 1 が合致されると、各予備ねじ保持板 3 3 は、各予備ねじ保持部材 2 3 に保持された各予備ねじ 1 4 の頭部 1 1 b 上方に覆設される。

【0104】

ボックススペース 2 とボックスカバー 3 とが結合され、封印部材 2 1 , 3 1 が合致された後、ボックスカバー 3 に穿設された各通穴 5 c , 5 c にビス 9 , 9 をそれぞれ挿入すると、これらのビス 9 , 9 のねじ部先端が主制御基板 7 の各通穴 7 a , 7 a を通過してボックススペース 2 の底板 2 a に到達する。各ビス 9 , 9 のねじ部先端の底板 2 a への到達後、各ビス 9 , 9 がボックススペース 2 の底板 2 a にねじ込まれ、仕切部材 5 を介してボックスカバー 3 及び主制御基板 7 をボックススペース 2 にまとめてねじ止めにより固定される。その後、各通穴 5 c , 5 c から底板 2 a にねじ込まれたビス 9 , 9 を覆いつつ、ボックススペース 2 及びボックスカバー 3 に跨るようにして、封印シール 1 0 , 1 0 がそれぞれ貼付される（図 4 参照）。

【0105】

次に、図 4 に示すように、各ボックス封印具 1 0 の封印部材 3 1 のうち、ボックスカバー 3 の側壁 3 b の最も左側に配設された封印部材 3 1、及び、ボックスカバー 3 の側壁 3 c の最も右側に配設された封印部材 3 1 の内部へ封印ねじ 1 1 を挿入する。具体的には、図 8 に示すように、上述した 2 つの封印部材 3 1 の各挿入穴 3 1 b 内に封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c をそれぞれ挿入する。封印ねじ 1 1 挿入後、封印ねじ 1 1 の係合溝 1 1 g にスクリュードライバ等のねじ回し工具を係合し、封印ねじ 1 1 をナット 1 2 にねじ込む。封印ねじ 1 1 がねじ込まれると、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d は、ナット 1 2 のめねじ部 1 2 c に螺入される。封印ねじ 1 1 のねじ込みが続行されると、封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c は、ナット 1 2 の下方に配置された係止座金 1 3 の受け部 1 3 a に到達し、内孔 1 3 b へと案内される。封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c が内孔 1 3 b へと案内され挿入されると、先端部 1 1 c のテーパ部 T 1 により、係止座金 1 3 の内孔 1 3 a が押し広げられ、係止座金 1 3 の受け部 1 3 a が弾性変形する。

【0106】

封印ねじ 1 1 が更にねじ込まれると、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d とナット 1 2 のめねじ部 1 2 c との螺合が解除され、おねじ部 1 1 d および非おねじ部 1 1 e はそれぞれ保持穴 1 2 e およびめねじ部 1 2 c 内に挿設され、封印ねじ 1 1 の係止溝 1 1 f が係止座金 1 3 により係止され、封印ねじ 1 1 が封印部材 2 1 内にて抜き取り不可能な状態で保持される。一方、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b は、封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a 内に係合される。

【 0 1 0 7 】

その結果、封印ねじ 1 1 を反ねじ込み方向へ回転させた場合、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d は、ナット 1 2 の保持穴 1 2 e 内にて空回し、封印ねじ 1 1 を封印部材 2 1 内から抜き取り不可能にすることができる。更に、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b は、封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a に係合されているので、基板ボックス 1 のボックススペース 2 とボックスカバー 3 とが開封不可能に連結され、基板ボックス 1 を確実に封印することができる（図 8 参照）。よって、基板ボックス 1 に被包された主制御基板 7 の制御用 ROM 等を不適法に取り外して、パチンコ機 P の遊技内容を変更する不正行為を防止することができる。また、封印部材 2 1 , 3 1 を破壊、切断等すれば基板ボックス 1 を開封することができるが、その場合には、基板ボックス 1 が開封された痕跡を確実に残すことができる。即ち、不正行為が行われたか否かを即座に発見することができる。

【 0 1 0 8 】

また、このようにして基板ボックス 1 が封印されると、各予備ねじ保持穴 2 3 a に保持された各予備ねじ 1 4 は、各予備ねじ保持板 3 3 により、確実に係止され、各予備ねじ保持穴 2 3 a 内に抜き取り不可能な状態で保持される。よって、予備ねじ 1 4 が予備ねじ保持穴 2 3 a から抜け落ちることが防止されるので、予備ねじ 1 4 の紛失を防止することができる。また、予備ねじ 1 4 の不正な抜き取りを防止することができる。

【 0 1 0 9 】

以上説明したように、本実施例の基板ボックス 1 によれば、各係止枠 2 e 1 及び各係止爪 3 d 1 によって、ボックススペース 2 の側壁板 2 e とボックスカバー 3 の側壁板 3 d とは連結されている。よって、かかる側壁板 2 e , 3 d の対向面間へ薄板状の工具等を差し込んでこじ開けようとしても、こじ開ける際の持ち上げ量を各係止枠 2 e 1 及び各係止爪 3 d 1 により制限することができる。従って、かかる持ち上げ量の制限により、ボックススペース 2 の側壁板 2 e と側壁板 3 d との対向面間に隙間が開くことを防止することができるのである。

【 0 1 1 0 】

ここで、例えば、側壁板 2 e , 3 d の対向面がそれぞれ略平面状に形成されていると、かかる対向面間から薄板状の工具等が差し込まれて、その工具等の先端部分で主制御基板 7 の信号線が削られ切断され、遊技内容が不正に変更されてしまう。

【 0 1 1 1 】

しかしながら、基板ボックス 1 では、各係止枠 2 e 1 及び各係止爪 3 d 1 によってボックススペース 2 とボックスカバー 3 とが連結される箇所、即ち、側壁板 2 e , 3 d の対向面間を、遮蔽板 3 d 2 によって遮蔽している。よって、かかる側壁板 2 e , 3 d の対向面間へ薄板状の工具等が差し込まれたとしても、その工具等の先端は遮蔽板 3 d 2 に突き当たるので、かかる工具等の差し込みを防止することができる。

【 0 1 1 2 】

この差し込みの防止によりボックススペース 2 及びボックスカバー 3 のこじ開けが防止されるので、こじ開けられた基板ボックス 1 の隙間から薄板状の工具や針金等を差し込んで主制御基板 7 に不正な加工を施し、パチンコ機 P の遊技内容を変更する不正行為を防止することができる。

【 0 1 1 3 】

また、各遮蔽板 3 d 2 は、略平板状に形成され、且つ、ボックスカバー 3 の側壁板 3 d の端面における各係止爪 3 d 1 の間部分にそれぞれ立設されるので、各係止爪 3 d 1 とともに側壁板 3 d と側壁板 2 e との対向面間をほぼ全域に亘って遮蔽することができる。

【 0 1 1 4 】

更に、遮蔽板 3 d 2 は、ボックスカバー 3 の側壁板 3 d に一体的に立設されるので、かかる側壁板 3 d とボックススペース 2 の側壁板 2 e との対向面間を封印シールなどの他の部材を用いて塞がなくても、かかる対向面間に生じる間隙を遮蔽することができる。よって、封印シールなどを別途、側壁板 3 d とボックススペース 2 の側壁板 2 e との対向面間に貼り付ける必要がないので、その分、基板ボックス 1 の組立作業を簡素化することができる。

。また、上記の通り、余分な封印シールが不要なので、基板ボックス 1 の部品点数がされて、その分、基板ボックス 1 に要するコストを低減することができる。

【 0 1 1 5 】

以上、実施例に基づき本発明を説明したが、本発明は上記実施例に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の改良変形が可能であることは容易に推察できるものである。

【 0 1 1 6 】

例えば、ボックスベース 2 の側壁板 2 e 及びボックスカバー 3 の側壁板 3 d における対向面間は、複数枚の遮蔽板 3 d 2 によって遮蔽されたが、遮蔽板 3 d 2 の枚数は必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、遮蔽板は、側壁板 3 d の端面の全域に亘って連続した 1 枚の板状体に形成しても良い。この遮蔽板によれば、側壁板 2 e , 3 d の合わせ目の全域を遮蔽して、薄板状の工具等の差し込みをより一層防止することができる。

【 0 1 1 7 】

本実施例では、ボックスカバー 3 の側壁板 3 d に遮蔽板 3 d を立設したが、例えば、ボックスベース 2 の側壁板 2 e に遮蔽板を立設しても良い。即ち、ボックスベース 2 の側壁板 2 e とボックスカバー 3 の側壁板 3 d との合わせ目を遮蔽することができれば、遮蔽板は、ボックスベース又はボックスカバーのいずれに設けても良い。また、本実施例では、ボックスカバー 3 の側壁板 3 d に遮蔽板 3 d を立設したが、例えば、遮蔽板をボックスカバーと別体に形成しても良い。

【 0 1 1 8 】

更に、本実施例では、側壁板 2 e , 3 d 、遮蔽板 3 d 2 及び段部 3 d 3 の合わせ目を合決り状に接合したが、かかる接合部分の合わせ目の形状は、必ずしもこれに限られるものではなく、例えば、斜め矧ぎ（ななめはぎ）、本実矧ぎ（ほんざねはぎ）、相互矧ぎ（そうごはぎ）又は矢はず矧ぎ（やはずはぎ）などの板矧ぎ（いたはぎ）形状に構成しても良い。

【 0 1 1 9 】

本実施例では、主制御基板 7 を収容する基板ボックス 1 に本発明を適用したが、遊技機に配設される他の回路基板、例えば、球の払い出しの制御を行う払い出し制御基板などを収容する基板ボックスに本発明を適用しても良い。

【 0 1 2 0 】

なお、以下に本発明の変形例を示す。請求項 1 記載の遊技機用基板ボックスにおいて、前記側壁部材を、その側壁部材に対向する前記ボックスベース又はボックスカバーの他方における縁部に連結し、そのボックスカバーを前記ボックスベースに対して開閉可能に結合する開閉部材を備え、前記遮蔽部材は、その開閉部材により結合される前記側壁部材と前記ボックスベース又はボックスカバーの他方における縁部との対向面間を遮蔽するものであることを特徴とする遊技機用基板ボックス 1。

【 0 1 2 1 】

遊技機用基板ボックス 1 によれば、開閉部材によって、側壁部材とボックスベース又はボックスカバーの他方における縁部とは連結されるので、かかる両者の対向面間へ薄板状の工具等を差し込んでこじ開けようとしても、こじ開ける際の持ち上げ量を開閉部材により制限できる。よって、かかる持ち上げ量の制限により、側壁部材とボックスベース又はボックスカバーの他方との対向面間に隙間が開くことを防止することができる。

【 0 1 2 2 】

ここで、例えば、開閉部材により連結された側壁部材とボックスベース又はボックスカバーの他方における縁部との対向面がそれぞれ略平面状に形成されていると、かかる対向面間から薄板状の工具等を差し込まれてしまう。かかる工具等が差し込まれると、その工具等の先端部分で回路基板の信号線が削られ切断されて、遊技内容が不正に変更されてしまうおそれがある。

【 0 1 2 3 】

しかしながら、遊技機用基板ボックス 1 によれば、遮蔽部材によって、側壁部材とボッ

クスペース又はボックスカバーの他方における縁部との対向面間は遮蔽されるので、かかる対向面間へ薄板状の工具等が差し込まれたとしても、その工具等の先端は遮蔽部材に突き当たるので、かかる工具等の差し込みを防止することができるのである。

【0124】

請求項1記載の遊技機用基板ボックス、又は、遊技機用基板ボックス1において、前記ボックススペース又はボックスカバーの他方は、前記側壁部材と対向する位置からその側壁部材へ向けて立設される第2側壁部材を備え、前記遮蔽部材は、前記側壁部材から前記ボックススペース又はボックスカバーの他方側へ向けて立設されるとともに、前記第2側壁部材における前記側壁部材との対向面より更に前記ボックススペース又はボックスカバーの他方側へ延出されていることを特徴とする遊技機用基板ボックス2。

【0125】

この遊技機用基板ボックス2によれば、ボックスカバーがボックススペースの開放部分に覆設される場合、側壁部材から立設される遮蔽部材は、第2側壁部材における側壁部材との対向面より更にボックススペース又はボックスカバーの他方側へ延出され、この延出部分により側壁部材と第2側壁部材との対向面間を遮蔽することができる。よって、ボックススペース及びボックスカバーをこじ開けるために、薄板状の工具等が第1及び第2側壁部材の対向面間へ差し込まれたとしても、その工具等の先端は遮蔽部材の延出部分に突き当たるので、薄板状の工具等の差し込みを防止して、ボックススペース及びボックスカバーのこじ開けを防止することができる。

【0126】

遊技機用基板ボックス2において、前記第2側壁部材における前記側壁部材との対向面は、その側壁部材における前記第2側壁部材との対向面と当接されており、前記遮蔽部材は、前記第2側壁部材の立設位置より内側位置へ向けて立設され、その遮蔽部材の外側面は前記第2側壁部材の内側面と当接されていることを特徴とする遊技機用基板ボックス3。よって、側壁部材と第2側壁部材との対向面間、及び、遮蔽部材の外側面と第2側壁部材の内側面との間に隙間ができることがない。従って、このような隙間に薄板状の工具等を差し込んで、ボックススペース及びボックスカバーをこじ開ける不正行為を防止することができる。

【0127】

請求項1記載の遊技機用基板ボックス、又は、遊技機用基板ボックス1から3のいずれかにおいて、前記遮蔽部材は、略板状に形成されるとともに、前記ボックススペース又はボックスカバーの縁部に沿って所定長さ連続して設けられていることを特徴とする遊技機用基板ボックス4。

【0128】

請求項1記載の遊技機用基板ボックス、又は、遊技機用基板ボックス1から4のいずれかにおいて、前記遮蔽部材は前記ボックススペース又はボックスカバーのいずれか一方に一体的に形成されていることを特徴とする遊技機用基板ボックス5。

【0129】

請求項1記載の遊技機用基板ボックス、又は、遊技機用基板ボックス1から4のいずれかにおいて、前記遮蔽部材は前記ボックススペースおよびボックスカバーと別体に形成されていることを特徴とする遊技機用基板ボックス6。

【0130】

【発明の効果】 本発明の遊技機用基板ボックスによれば、ボックスカバーがボックススペースの開放部分に覆設される場合には、遮蔽部材によって、そのボックススペース又はボックスカバーの他方と側壁部材との対向面間を遮蔽することができる。よって、ボックススペース及びボックスカバーをこじ開けるために、薄板状の工具等がボックススペース又はボックスカバーの他方と側壁部材との対向面間へ差し込まれたとしても、その工具等の先端は遮蔽部材に突き当たるので、かかる工具等の差し込みを防止することができる。この差し込みの防止によりボックススペース及びボックスカバーのこじ開けが防止されるので、こじ開けにより生じる隙間から薄板状の工具や針金等を差し込んで、回路基板に不正な加

工を施し、遊技機の遊技内容を変更する不正行為を防止することができるという効果がある。

【 0 1 3 1 】

また、開閉部材によって、側壁部材とボックスベース又はボックスカバーの他方における縁部とは連結されるので、かかる両者の対向面間へ薄板状の工具等を差し込んでこじ開けようとしても、こじ開ける際の持ち上げ量を開閉部材により制限できる。よって、かかる持ち上げ量の制限により、側壁部材とボックスベース又はボックスカバーの他方との対向面間に隙間が開くことを防止することができるという効果がある。

【 0 1 3 2 】

ここで、例えば、開閉部材により連結された側壁部材とボックスベース又はボックスカバーの他方における縁部との対向面がそれぞれ略平面状に形成されていると、かかる対向面間から薄板状の工具等を差し込まれてしまう。かかる工具等が差し込まれると、その工具等の先端部分で回路基板の信号線が削られ切断されて、遊技内容が不正に変更されてしまうおそれがある。しかしながら、遮蔽部材によって、側壁部材とボックスベース又はボックスカバーの他方における縁部との対向面間は遮蔽されるので、対向面間へ薄板状の工具等が差し込まれたとしても、その工具等の先端は遮蔽部材に突き当たるので、工具等の差し込みを防止することができるという効果がある。

【 0 1 3 3 】

ボックスカバーがボックスベースの開放部分に覆設される場合、側壁部材から立設される遮蔽部材は、第2側壁部材における側壁部材との対向面より更にボックスベース又はボックスカバーの他方側へ延出され、この延出部分により側壁部材と第2側壁部材との対向面間を遮蔽することができる。よって、ボックスベース及びボックスカバーをこじ開けるために、薄板状の工具等が第1及び第2側壁部材の対向面間へ差し込まれたとしても、その工具等の先端は遮蔽部材の延出部分に突き当たるので、薄板状の工具等の差し込みを防止して、ボックスベース及びボックスカバーのこじ開けを防止することができるという効果がある。

【 0 1 3 4 】

第2側壁部材における側壁部材との対向面は、その側壁部材における第2側壁部材との対向面と当接されており、遮蔽部材は、第2側壁部材の立設位置より内側位置へ向けて立設され、その遮蔽部材の外側面は第2側壁部材の内側面と当接されている。よって、側壁部材と第2側壁部材との対向面間、及び、遮蔽部材の外側面と第2側壁部材の内側面との間に隙間ができることがない。従って、このような隙間に薄板状の工具等を差し込んで、ボックスベース及びボックスカバーをこじ開ける不正行為を防止することができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例である基板ボックスが配設されたパチンコ機の裏面図である。

【図2】 基板ボックスの分解斜視図である。

【図3】 ボックス本体に合致されたボックス蓋体がスライドされて結合される以前の状態における基板ボックスの側断面図である。

【図4】 基板ボックスの組立後の外観斜視図である。

【図5】 (a)は、図4のV a - V a線における係止枠及び係止爪の側断面図であり、(b)は、図4のV b - V b線における遮蔽板の側断面図である。

【図6】 基板ボックスに配設されたボックス封印具の拡大斜視図である。

【図7】 天板を下方へ向けた状態のボックス蓋体の部分的拡大図である。

【図8】 基板ボックスを封印した状態におけるボックス封印具の部分断面図である。

。

【図9】 予備ねじを保持した状態におけるボックス封印具の部分断面図である。

【符号の説明】

1 主制御基板ボックス（遊技機用基板ボックス）

2 ボックスベース

2 e 側壁板（第2側壁部材、ボックスベース又はボックスカバーの他方における縁部）

2 e 1 係止枠（開閉部材の一部）

3 ボックスカバー

3 d 側壁板（側壁部材）

3 d 1 係止爪（開閉部材の一部）

3 d 2 遮蔽板（遮蔽部材）

7 主制御基板（回路基板）

P パチンコ機（遊技機）